

# 「いちご」販売情報

J A 全農みやぎ

園芸・生産振興部 園芸販売課 永澤 克崇

# 1. 東京都中央卸売市場取扱実績

月	旬	入荷量 (t)	価格 (円/kg)	前年対比 (%)		主産地構成比 (%)
				数量	単価	
10	上旬	6	2,637	50.6	113.5	北海道 (55.8) 青森 (14.1) 長野 (13.4) 宮城 (12.8)
	中旬	7	3,164	60.2	135.9	北海道 (51.7) 青森 (13.0) 栃木 (9.9) 長野 (9.8)
	下旬	15	3,819	56.7	131.3	栃木 (61.7) 北海道 (15.5) 静岡 (5.2) 茨城 (5.1)
10月実績		29	3,394	56.0	129.0	栃木 (35.1) 北海道 (33.5) 青森 (8.6) 長野 (7.1)
11	上旬	64	3,130	70.4	129.9	栃木 (79.5) 茨城 (9.9) 静岡 (4.0) 北海道 (2.0)
	中旬	187	2,196	74.3	111.6	栃木 (78.5) 茨城 (13.5) 静岡 (3.7) 福岡 (2.3)
	下旬	416	2,027	92.8	107.2	栃木 (65.3) 茨城 (13.5) 福岡 (10.6) 静岡 (5.0)
11月実績		666	2,180	84.3	110.4	栃木 (70.4) 茨城 (13.2) 福岡 (7.3) 静岡 (4.5)
12	上旬	674	1,944	106.9	103.0	栃木 (48.6) 福岡 (16.0) 茨城 (10.6) 静岡 (7.2)
	中旬	886	2,250	111.9	99.1	栃木 (44.5) 福岡 (16.2) 茨城 (8.3) 静岡 (7.8)
	下旬	811	2,593	92.3	97.4	栃木 (47.0) 福岡 (13.1) 静岡 (11.6) 茨城 (9.2)
12月実績		2,371	2,281	103.1	98.5	栃木 (46.5) 福岡 (15.1) 茨城 (9.3) 静岡 (8.9)
1	上旬	1,270	1,924	131.5	94.7	栃木 (46.0) 福岡 (13.8) 静岡 (9.9) 茨城 (9.2)
	中旬	1,406	1,598	112.1	89.2	栃木 (45.5) 福岡 (12.8) 茨城 (10.0) 静岡 (9.0)

## 2. 販売状況 (1) 【10月】

- 今年産は各産地の生育は例年通りとなり、10月の出荷量は生育前倒しとなった昨年と比べると少なく、価格帯は高値相場で推移した。
- 数量は少なかったものの、末端売価が非常に高い影響から、末端の荷動きは非常に鈍く、各販売先は売価を下げるため逆ザヤでの販売で展開していった。
- 業務階級に関しても、数量が少ないことから高値での販売になった。栃木県産などの出荷は下旬には100梱ほどの出荷となったが昨年よりも非常に少なく。京浜市場においては、A品800円/P前後での販売で推移した。

## 2. 販売状況 (2)【11月】

- 11月に入るも、引き続き各産地の出荷は多くはないが、高値の影響で末端の荷動きが鈍く厳しい販売となった。相場500円/ p 前後の価格帯まで下げて売り込むも、物価高騰の影響から高値のイチゴの末端消費は鈍い状況が続いた。
- 一方、競合品目の柿、リンゴ、みかんについては豊作の影響で出回り多く、安価な販売となり、いちごよりも荷動きは良い状況となった為、量販店はみかん等メインに売場を広げて果実全般の荷動き改善を図った。
- 下旬に入りイチゴの数量が更に増えたことから各販売先は400円前半で売込みをにかけていった。

## 2. 販売状況 (3) 【12月-①】

- 12月に入り、いちご全般の入荷は更に増えて、量販の売場も498円/ p 前後となったものの、末端消費の荷動きは引続き鈍く、量販からの注文は非常に少ない状況となった。
- その状況下の中いちごの入荷は増えているため、各販売先は厳しい販売となった。相場は400円/ p 前半だったが、その下の価格で販売する売り先も散見された。
- 中旬に入ると小売り向け中心の売場が徐々にクリスマス向け業務に移り、業務階級中心の出荷に変わっていった。

## 2. 販売状況 (4)【12月-②】

- 本年産は各産地順調な生育となっていたが、12月10日を過ぎた頃に全国的な低温・曇雨天に見舞われ、業務階級の出荷量が減少した。
- 特にM玉が非常に少なく、相場についても高騰。最終的にはL 1100円、M 1200円での高値販売となった。各業者は欠品したままクリスマス需要が終了した。
- その後、年末向けの販売に切り替わり大玉レギュラーパックへの注文に切り替わっていった。

## 2. 販売状況 (5) 【12月-③】

- 下旬に入るも、引続き寒波の影響から各産地の出荷は少なく、大玉の規格が足りていない状況が続いた。
- 好天となれば、出荷量は一気に増える見通しであったが、悪天候が続き、年末についても欠品しながらの販売となった。
- 相場は500円/ p 前後で高騰しての販売となった。

## 2. 販売状況 (6)【1月-①】

- 1月に入り、年末年始の需要も終わったことから、価格帯を落としての販売となった。全国的な増量に備えて、相場350円/ p での販売で売込をかけた。
- 1月上旬は売り込んだこともあり、順調な荷動きで推移した。下旬に入り、全国的な寒波が到来。降雪・低温の影響で本県産・九州産においては非常に少ない状況となった。
- 関東産においても業務階級が減少し、納品関係については数量が不足しており引合いが強くなった。



## 2. 販売状況 (7)【1月-②】

- 寒波の影響で少ない状況ではあるが、好天が続けば、各産地増量の見通しのため、大玉については引き続き売り込みをかけている。
- 2月に入ると腋果出始めの影響から全国的にもF A中心に出荷増量見込みのため、非常に厳しい販売が懸念されている。